

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 A (DH201)			担当教員	韓 榮芝		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
現代は「地域福祉の時代」と言われている。地域福祉とはどんな意味なのか。どのような社会的背景から生み出されて、どんな基本的理念があるのか、対人援助職を志す者が要援助者を適切に理解するために地域福祉に関する知識や視点を獲得することは必須である。本演習では、対人援助職を志す者として、地域問題について共通認識・理解を高めるために、先行文献や動画視聴を通して、児童、障がい、高齢分野などの在宅自立生活支援への理解を深めることを目標とする。加えて社会福祉学に関するテーマを選定し、論文執筆の方法やプレゼンテーションの方法など研究の基礎を学ぶ。							④⑤⑥⑦⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力							
情報収集、分析力	動画視聴等を通して関心のあるテーマについて資料を収集し、問題意識や課題を明確化することができる。				レポート		20%
コミュニケーション力	発表を通じて自分自身の考えを他者に伝えることができる。自分自身と他者の考えの相違点を踏まえた上で討議できる。				発表 ディスカッション		30% 10%
協働・課題解決力	グループ活動に主体的に参加することができる。				グループワーク		30%
多様性理解力	自分自身と異なる立場や意見を尊重し、建設的に討議できる。				ディスカッション		10%
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
定期試験はおこなわず、グループ課題（レポート及び発表）50%、グループワーク 30%、ディスカッション 20%をもって評価する。グループ課題では、問題意識や課題について適切にまとめ、他者に情報を伝えることができているかどうかを評価する。グループワークでは、参加態度及びグループへの貢献度をもとに評価する。ディスカッションでは、自分自身と異なる立場や意見を理解、尊重し、建設的な討議ができていくかどうかをもとに評価する。課題への取り組みや発表内容については、授業内でのコメントなどを通じてフィードバックをおこなう。							
授業の概要							
本演習は、ゼミ形態での授業を基本とし、地域全般の福祉課題をテーマに取り上げ、学修を進める。その上、地域福祉活動の実際動画を通してディスカッションや発表、レポート作成といった授業課題にグループで取り組む。授業で用いた資料はポートフォリオのコンテンツに掲載する。それによって、他者と協働しながら課題を解決する能力や協調性を醸成する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：指定しない 参考書：適宜紹介する 指定図書：「レポート・論文の書き方入門」（単行本） 河野 哲也著 慶応義塾大学出版会、							
授業外における学修及び学生に期待すること							
地域全般の福祉課題を把握し、コミュニティ・ソーシャルワークに関心がある学生の履修を期待する。 本授業では、グループワークやグループディスカッションが求められるため、履修生の主体的な参加を期待する。さらに、授業内容に関連するボランティア活動への積極的な参加を期待する。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	シラバスの内容や授業の進め方などについて説明する。	予習：シラバスを熟読する 復習：今後の授業の進め方を確認する
2	非言語的コミュニケーション	人間関係における非言語的コミュニケーション（視線・表情・ジェスチャーなど）の機能について体験的に学修する。	予習：非言語的情報の種類を考える 復習：非言語的コミュニケーション機能を省察する
3	言語的コミュニケーション	人間関係における言語的コミュニケーションの機能について体験的に学修する。	予習：言語情報の伝え方考える 復習：言語的コミュニケーション機能を省察する
4	子どもの在宅生活支援問題	ヤングケアラー問題について学修する。ヤングケアラーの問題を抱える子どもの支援についてディスカッションをおこなう。	予習：ヤングケアラーの問題を調べる 復習：ヤングケアラーの問題を省察する
5	障がい者の在宅生活支援問題	障がい者の地域移行の必要性について学修する。障がい者の地域移行の支援方法などについてディスカッションをおこなう。	予習：障がい者の地域移行の必要性を調べる 復習：障がい者の地域移行の取組を省察する
6	引きこもりのニーズ把握問題	8050問題、引きこもり問題の現状と課題について学修する。引きこもりの支援方法などについてディスカッションをおこなう。	予習：引きこもりの現状と課題を調べる 復習：引きこもりの支援方法を省察する
7	高齢者の在宅生活支援問題①	高齢者孤独・孤立問題について学修する。高齢者の孤独・孤立の支援方法などについてディスカッションをおこなう。	予習：高齢者孤立・孤独問題を調べる 復習：高齢者の孤立・孤独支援を省察する
8	高齢者の在宅生活支援問題②	地域包括ケアシステムについて学修する。地域包括支援センターの高齢者在宅生活支援についてディスカッションをおこなう。	予習：高齢者の在宅生活問題を調べる 復習：高齢者の地域包括支援方法を省察する
9	課題研究 (テーマ選定)	グループ編成をおこない、学修した内容などからグループごとに問題意識や課題を立ち上げ、研究テーマを設定する。	予習：研究テーマに関するキーワードを選定する 復習：文献や書籍の検索方法を確認する
10	課題研究 (文献検討)	研究テーマに関する文献や書籍などの検索方法を学修し、文献検討に向けた準備をおこなう。	復習：研究テーマに関する問題意識を明確化する文献や書籍の検索方法を確認する
11	課題研究 (研究レポート作成①)	研究レポートの作成方法を学修し、作成に向けた準備をおこなう。	予習：研究レポートの作成方法を調べる 復習：研究レポートの作成方法を確認する
12	課題研究 (研究レポート作成②)	グループごとに研究レポートを作成し、発表に向けた準備をおこなう。	予習：研究レポートの構成を考える 復習：研究レポートの内容を推敲する
13	課題研究 (研究レポート作成③)	グループごとに研究レポートを作成し、発表に向けた準備をおこなう。	予習・復習：研究レポートの内容を推敲する
14	課題研究 (研究レポート作成④)	グループごとに研究レポートを作成し、発表に向けた準備をおこなう。	予習・復習：研究レポートの内容を推敲する
15	課題研究 (発表)	研究レポートを発表し、発表内容について全体討議をおこなう。これまでの授業内容を総括する。	予習：研究レポートの発表準備をおこなう 復習：課題研究への取り組みを省察する

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 A (DH201)			担当教員	丸山 貴志		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>ソーシャルワークにおいては多職種連携、チーム医療が重要である。本演習では、特に精神保健福祉の分野で精神医学の視点から老年期に起こりうる認知症、うつ、身体合併症に伴うせん妄など、精神疾患や身体疾患に伴う精神症状について理解するとともに、そこに介入する専門職の医療連携について焦点を当てる。そのほか各自関心のあるテーマを取り上げディスカッションすることで知識を深める。</p> <p>前期では、老年精神医学、社会精神医学という視点から精神保健福祉の基礎を理解し、知識を深める。情報収集を行い、収集した情報を分析し、課題やテーマに即したグループディスカッションやプレゼンテーションを行う能力を身につける。</p>							④⑤⑥⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	テーマに沿った課題について情報収集し、分析したうえで要点をまとめることができる。					課題レポート	15%
コミュニケーション力	自分の意見を整理したうえで、他の学生の意見を聞き入れ理解し、互いの意見についてディスカッションできる。					グループディスカッション グループ発表	25% 25%
協働・課題解決力	テーマに沿ってディスカッションした内容から浮かび上がってきた課題についてグループで解決策を導き出すことができる。					資料作成 課題レポート	10% 15%
多様性理解力	課題をもとに、あらゆる立場の当事者の地域生活について理解し、ディスカッションができる。					グループディスカッション	10%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業内で提示する課題レポートの提出 (30%)。テーマに沿ってまとめた発表用の資料作成 (10%) グループディスカッションやグループ発表がテーマに沿って的確に行われているかを評価する (60%)。また授業への出席状況、授業態度も成績に反映させる。課題レポートについては、次回の授業内でフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は「授業のねらい」で提示している「精神保健福祉」「ソーシャルワーク」「医療連携」をテーマとして、基礎的な知識の再習得と研究テーマを絞るために必要なスキルを身につけることを目指す。ポートフォリオを活用し、レポート作成等を行ったり、グループでの取り組みや活発なディスカッション、プレゼンテーションを行ったりすることにより、個々の知識を広め、定着させていくような授業を展開する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：授業で配布する資料等を使用する。</p> <p>参考書：必要に応じて適宜紹介する。</p> <p>指定図書：精神保健医療福祉白書編集委員会著「精神保健医療福祉白書 2018/2019」中央法規</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習では、精神保健福祉の分野から「ソーシャルワーク」や「医療連携」をテーマとして取り上げるため、その分野に興味、関心を持って履修することを期待する。授業外では精神保健福祉の社会情勢に常に目を向け、授業内で問題提起することを期待する。また主体的かつ積極的に授業に参加することで、卒業研究に向けた知識習得を意識するとともに、向上心を持って授業に臨んでほしい。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	本演習の目的について、進め方について説明を行う。 学生間自己紹介。	予習：シラバスを確認 復習：授業を振り返り疑問点を整理する
2	精神保健福祉について理解する①	精神保健福祉の現状と課題について学び、資料を基にディスカッションする。	予習：精神保健福祉に関するイメージや知識をまとめておく。 復習：学んだ現状を整理する。
3	精神保健福祉について理解する②	精神保健福祉の現状と課題について学び、資料を基にディスカッションする。	予習：今回の授業内容を整理しておく。 復習：学んだ課題を整理する。
4	精神保健福祉について理解する③	精神保健福祉の現状と課題について学び、資料を基にディスカッションする。	予習：今回の授業内容を整理しておく。 復習：学んだ課題をまとめる。
5	精神保健福祉について理解する④	精神保健医療福祉白書を読み解き、わが国の精神保健福祉の傾向を整理する。	予習：当該ページを読む。 復習：学んだ現状を整理する。
6	精神保健福祉について理解する⑤	精神保健医療福祉白書を読み解き、わが国の精神保健福祉の傾向を整理する。	予習：当該ページを読む。 復習：学んだ課題を再検討する。
7	精神保健福祉について理解する⑥	精神保健福祉とソーシャルワークについて学び、資料を基にディスカッションする。	予習：PSW について調べる。 復習：授業内容を振り返る。
8	精神保健福祉について理解する⑦	精神保健福祉とソーシャルワークについて学び、資料を基にディスカッションする。	予習：社会資源について調べる。 復習：授業内容を振り返る。
9	精神保健福祉について理解する⑧	精神保健福祉とソーシャルワークについて学び、資料を基にディスカッションする。	予習：配布資料を読む。 復習：授業内容を振り返る。
10	精神保健福祉について理解する⑨	精神保健福祉とソーシャルワークについて現状と課題を整理したうえでディスカッションする。	予習：配布資料を読む。 復習：授業内容を振り返る。
11	精神保健福祉について理解する⑩	精神保健福祉とソーシャルワークについての現状と課題をまとめる。	予習：配布資料を読む。 復習：レジュメ作成計画を立てる。
12	精神保健福祉について理解した内容のまとめ①	見えてきた現状と課題をまとめて、発表のための資料を整理し、レジュメを作成する。	予習：レジュメ作成計画を立てる。 復習：レジュメの整理。
13	精神保健福祉について理解した内容のまとめ②	見えてきた現状と課題をまとめて、発表のための資料を整理し、レジュメを作成する。	予習：レジュメ作成計画を立てる。 復習：レジュメの整理。
14	精神保健福祉について理解した内容のまとめ③	見えてきた現状と課題を発表。発表内容についてディスカッションする。	予習：発表準備。 復習：レジュメの整理。
15	全体の振り返り	これまでまとめてきた内容を振り返り、自分の研究テーマの検討を行う。	予習：これまでのレポートの整理。 復習：後期の準備。

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 A (DH201)			担当教員	梅野 潤子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習の目的は、生活支援を通して子どもの人権を護る、児童ソーシャルワークに必要な基本的考え方(価値)と知識を習得することにある。そのために必要とされる思考力・判断力・表現力を、ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション等の参加型学習を通して身につけていく。</p> <p>前期においては、子どもの権利とそれを取り巻く社会問題についての理解を深める。さらに、社会問題・生活問題に対応するための子どもの参加と協働及び、その手段として必要となる子どもとのコミュニケーションについて学ぶ。このような学修を通じて、子どもの参加する権利を尊重したソーシャルワークの実践基盤を得る。</p>							①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	子どもの人権に関する社会問題・生活問題とその解決に向けた参加・協働に関する資料を収集し、解釈したことを文章や図表で示すことができる。				第7回・第11回小レポート	10%	
コミュニケーション力	子どもの人権に関する社会問題・生活問題について調べた結果を、プレゼンテーションを通じて他者に伝えることができる。 子どもの権利や子どもの参加・協働について学んだ成果を、自分の言葉で表現することができる。				第7回グループ発表 期末課題レポート	30% 30%	
協働・課題解決力	社会問題の解決や生活支援の過程における子どもの参加・協働をテーマとしたグループ活動に、主体的に参加することができる。				グループワーク	25%	
多様性理解力	子どもの生活の多様性について理解することができる。				グループワーク	5%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>期末の課題レポート(30%)では、子どもの権利や子どもの参加・協働に関する学びの習熟度を評価する。グループ発表(30%)では、分担する課題について適切にまとめ、他者に情報を伝えることができるかを評価する。小レポート(10%)では、レポート作成のルールを守った上で、自分の考えについて適切に文章表現をすることができるかを評価する。グループワーク(30%)では、ディスカッション・作業等への参加態度とグループへの貢献度を重視する。必要に応じて、ポートフォリオ上と授業内においてフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>本演習では、上記のねらいに沿って、担当教員が参考文献、視聴覚資料、統計資料等をもとに情報提供を行う。それらを踏まえ、受講生がグループワーク(ディスカッション、発表、課題制作等)に取り組む参加型の授業である。その過程で、インターネットを活用した情報検索やPower Pointによるプレゼンテーション方法を指導する。具体的には、子どもの権利とそれを取り巻く社会問題・生活問題について取り上げ、さらに課題解決のための子どもの参加と協働をテーマとする。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：授業内で配布する資料を用いる。 参考書：適宜紹介する。 指定図書：小口尚子・福岡鮎美(1995)『子どもによる子どものための「子どもの権利条約」』小学館。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>児童福祉分野の価値基盤となる子どもの権利をテーマとして取り上げるため、児童福祉やスクールソーシャルワーク等、子どもの生活支援に興味・関心のある学生の履修を期待する。</p> <p>授業内外のグループワーク及び個別ワークが求められ、その取り組み状況が評価対象となるため、その点を十分に踏まえた上で選択することを勧める。</p> <p>なお、子どもの権利に関する子ども向け情報(絵本やインターネットコンテンツ等)や子どもとのコミュニケーションツールは、英語で提供されている場合がほとんどである。それらの内容を把握するために、中学校・高等学校で学習する程度の英語を授業内で用いることがある。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	科目担当者の自己紹介、シラバスの説明を行う。受講生の自己紹介や、本演習の履修を希望した理由等に関するディスカッションを行い、本演習で実施する参加型ワークを体験する。	予習：シラバスを熟読し、本演習を履修した理由や学びたいこと等を整理する。
2	子どもの権利とは①～子ども・青年の声～	子どもの権利とは何かについて考えるために、子ども・青年の意見を紹介する。子ども・青年の声を踏まえ、受講生同士でディスカッションを行う。	予習：子どもの権利に関するイメージや知識をノートにまとめる。 復習：子どもの権利に関する疑問点をまとめる。
3	子どもの権利とは②～子どもの権利の歩み～	子どもの権利形成の歩みについて紹介する。児童福祉・社会福祉の歴史と結びつけて理解を深めるために、受講生同士でディスカッションを行う。	予習：これまで学んだ児童福祉・社会福祉の歴史に関する内容を復習する。 復習：子どもの権利の歩みについて整理する。
4	子どもの権利とは③～国連児童の権利に関する条約～	国連児童の権利に関する条約とその内容について紹介する。条約の内容に関する理解を深めるために、グループワークを行う。	予習：国連児童の権利に関する条約について調べる。 復習：権利条約の内容について整理する。
5	子どもの権利に関する社会問題・生活問題①	子どもの権利に関する社会問題・生活問題について、受講生が調べた新聞記事の内容について情報共有を行う。関心のあるテーマに沿ってグループ編成を行い、役割分担を決める。	予習：子どもの権利に関する社会問題・生活問題を取り上げた新聞記事を調べ、授業に持参する。 復習：グループの役割分担に従って情報収集を行う。
6	子どもの権利に関する社会問題・生活問題②	グループで設定したテーマに即して、情報共有・意見交換を行う。グループごとに、調べた結果やディスカッションの結果等を整理し、発表資料を作成する。	予習：グループの役割分担に従って情報収集を行う。 復習：グループ発表資料の作成。
7	子どもの権利に関する社会問題・生活問題③	グループごとに、作成した資料に基づいて発表を行う。グループワークの取り組み状況について振り返り、自己評価を行う。	予習：グループ発表の練習を行う。 復習：小レポートを作成する。
8	課題解決に向けた子どもの参加と協働①	権利条約に関する子ども向けインターネット動画を視聴し、子どもに対する情報提供の在り方について学ぶ。権利条約に関する子どもに対する情報提供について、グループディスカッションを行う。	予習：子どもの権利に関する子ども向け情報をインターネット検索する。 復習：子どもに対する情報提供に関する意見をまとめる。
9	課題解決に向けた子どもの参加と協働②	学校教育と子どもの健康を巡る課題に対して、中学生が取り組んだ事例について紹介する。事例について、グループディスカッションを行う。	予習：事例に関するインターネット動画を視聴する。 復習：グループディスカッションの内容を権利条約と結びつけて整理する。
10	課題解決に向けた子どもの参加と協働③	ソーシャルワーカーが個別支援において子どもと協働した事例を紹介する。事例について、グループディスカッションを行う。	予習：児童福祉分野の支援事例を調べる。 復習：グループディスカッションの内容を権利条約と結びつけて整理する。
11	課題解決に向けた子どもの参加と協働④	第7回の授業時にグループ発表を行った社会問題・生活問題を取り上げ、どのように子どもの参加と協働を推進するかについてグループディスカッションを行う。	予習：第7回のグループ発表・小レポートの内容を踏まえ、各自アイデアを考える。 復習：小レポートを作成する。
12	子どもとの効果的コミュニケーション①	子どもとのコミュニケーションに関する基本的知識を学ぶ。特に、描画や遊び、絵本、インターネット動画等の役割について理解する。	予習：子どもとのコミュニケーションの留意点について調べる。 復習：子どもと情報共有する際に有効なツールの役割を整理する。
13	子どもとの効果的コミュニケーション②	受講生が調べた子どもと用いるコミュニケーションツールについて共有する。子どもに向けて権利条約の内容を情報提供する際の具体的なツール（絵本やポスター等）をグループごとに考える。	予習：子どもと情報共有する際に有効なツールの具体例を調べる。 復習：グループの役割分担に即して作業を進める。
14	子どもとの効果的コミュニケーション③	子どもに向けて権利条約の内容を情報提供する際の具体的なツール（絵本やポスター等）をグループごとに考え、制作する。	予習：グループの役割分担に即して作業を進める。 復習：グループ発表の準備を行う。
15	子どもの参加する権利を護るソーシャルワークの基盤	グループごとに制作した成果物を発表し、提出する。これまでの授業内容のまとめを行う。 ※課題レポートの提示	予習：グループ発表の準備を行う。 復習：課題レポートを作成する。

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 A (DH201)			担当教員	野田 健		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>社会福祉実践者は、援助実践に求められる資質や能力、ホスピタリティとは何かを問い、日々福祉マインドを醸成していくことを通じて成長していく。私たちはそうした過程を実践の中で絶えず続けていくことが求められている。そこで、本科目のねらいを「人間尊重を重んじ自己研鑽を続ける社会福祉実践者としての自己を形成すること」とし、『福祉哲学』『社会貢献』を学修の柱に据え、「基礎学力」や「人間力」、「専門知識・技術」を高めていく。については、その作業を下記の4つの段階に分け、本科目においては第1段階に取り掛かることとする。</p> <p>第1段階 学習の基礎（土台）固め 第2段階 主体的な学習姿勢の構築 第3段階 研究の方法の修得 第4段階 研究の実施（卒業論文作成）</p>							⑤⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	与えられた課題に対し、適切な方法にて情報収集を行うとともに、情報を十分に分析し、自分の考えを論理的にまとめることができる。					課題の達成度 発表・ディスカッションでの発言内容	10% 10%
コミュニケーション力	自分の意見、他者の意見を適切に交換させていながら、互いに成長し合う関係を築くことができる。					課題の達成度 発表・ディスカッションでの参加姿勢	25% 25%
協働・課題解決力	与えられた課題に対し、メンバーと協働して適切な解決策を導き出すことができる。					課題の達成度 発表・ディスカッションでの貢献度	15% 15%
多様性理解力							
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>課題の達成度（50%）：レポート課題（PPTもしくはWord、ポートフォリオにて作成）にて評価を行う。右表にあるレポート課題①～③、⑥は5点、④⑤は15点とする。</p> <p>発表・ディスカッションでの発言内容（10%）、参加姿勢（25%）、貢献度（15%）：発表・ディスカッション時の発言内容、参加姿勢、貢献度を総合的に評価する。なお、第5、9、10、13、14回の授業時を主に評価対象とする。</p> <p>フィードバック：課題や発表・ディスカッションに関する評価のフィードバックは、授業中もしくはポートフォリオを活用し評価・解説する方法を用いる。</p>							
授業の概要							
<p>この授業では、『福祉哲学』『社会貢献』をベースに、福祉マインドを醸成し自己を形成していくため、学習の基礎（土台）固めを図る。社会福祉実践者として身につけるべき基礎学力と人間力、学習への意欲の必要性を視聴覚教材や図書を基にグループ討議をしながら学修していく。なお、授業以外にボランティア活動にも参加することを求める。授業の案内や課題提示等はポートフォリオを活用する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：授業中に資料を配布する</p> <p>参考書：堀田勉（2007）『人間力の育て方』集英社、外山滋比古（2010）『思考の整理学』筑摩書房 指定図書：厚生労働省編『厚生労働白書』日経印刷株式会社等の政府刊行物 ※ 発行年問わず</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習は、卒業論文につながるものであり、またゼミ方式で行われるものであることから、遠慮や謙遜をせず、お互いに自由に活発な時間が過ごせるよう、「意欲」と「協調」をもって参加されることを期待する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション①	講義計画の概要の紹介を行う。また、2年次のスケジュールの確認とルーブリック評価を実施する。	復習:1年次の振り返りと2年次のスケジュールを整理。
2	オリエンテーション②	学習方法(レポートの作成の仕方、報告やディスカッションの仕方)に関する説明を行う。	復習:学修方法に関する確認。
3	「視聴覚教材」① 自助・共助・公助の理解	自助・共助・公助についての理解を深め、自分自身がどのような人間になっていくべきかを問うため、視聴覚教材を視聴する。《レポート課題①》	復習:レポート課題①「視聴覚教材の感想」提出。
4	「視聴覚教材」② 自助・共助・公助の理解	前回授業の視聴覚教材を踏まえつつ、自助・共助・公助に関する資料を熟読し、自身の考えをまとめる。《レポート課題②》	復習:レポート課題②「自助・互助・共助に関する考え」提出。
5	「視聴覚教材」③ 自助・共助・公助に関するグループ討議	前回授業の課題を基にグループ討議を行い、私たちが考えるべき自助・共助・公助を整理するとともに、自分自身がどのような人間になっていくべきかを問う。《レポート課題③》	復習:レポート課題③「自分自身」提出。
6	「本の紹介」① 本1冊を熟読・レポート作成	「自分の関心事」をテーマにして、そのことに関する知見を拓げるため、各々が1冊の本を選定し、熟読する。	復習:選定図書熟読。
7	「本の紹介」② 本1冊を熟読・レポート作成	前回の授業に引き続き、本をさらに1冊選定して熟読し、その本から学び得たことをPPTにまとめる。	予習:選定図書熟読、PPT作成。 復習:予習と同じ。
8	「本の紹介」③ 本1冊を熟読・レポート作成	前回の授業に引き続き、本をさらに1冊選定して熟読し、その本から学び得たことをPPTにまとめる。《レポート課題④》	予習:選定図書熟読、PPT作成。 復習:レポート課題④「本の紹介」提出。
9	「本の紹介」④ 発表	各々がまとめてきたレポートの発表を行い、その後ディスカッションを行う。	予習:発表準備。 復習:発表の振り返り。
10	「本の紹介」⑤ 本1冊を熟読・レポート作成・発表	各々がまとめてきたレポートの発表を行い、その後ディスカッションを行う。	予習:発表準備。 復習:発表の振り返り。
11	「時事問題考察」① 1つの時事問題に対する考察・レポート作成・発表	1つの時事問題を熟読し、それに対する自分自身の考えをレポートにまとめる。	復習:時事問題熟読、レポートの作成。
12	「時事問題考察」② 1つの時事問題に対する考察・レポート作成・発表	1つの時事問題を熟読し、それに対する自分自身の考えをレポートにまとめる。《レポート課題⑤》	予習:時事問題熟読、レポートの作成。 復習:レポート課題⑤「時事問題の考察」提出。
13	「時事問題考察」③ 1つの時事問題に対する考察・レポート作成・発表	各々がまとめてきたレポートの発表を行い、その後ディスカッションを行う。	予習:発表準備。 復習:発表の振り返り。
14	「時事問題考察」④ ディベート	1つの時事問題を熟読し、それに関するディベートを実施する。	予習:ディベート準備。
15	全体の振り返り	これまでの全体の振り返りを実施する。《レポート課題⑥》	復習:レポート課題⑥「自己評価」提出。

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 A (DH201)			担当教員	大島 啓		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>専門基礎演習 A・B は、3 年次開講の「専門演習」へと発展していく科目である。本演習では、関心のある社会問題、社会福祉のテーマを選択し、それに関する文献を丁寧に解説することを通じて、現代日本社会が抱える様々な（福祉）問題の全体像を把握・整理し、資料の作成やプレゼンテーション、ディスカッションを通じて社会の課題に対する思考力、判断力、表現力を涵養することを目標とする。この演習はとりわけ、地域社会や国際社会の多様な課題に対応しうる理論的知識を深める点に特色がある。専門演習に向けて学修を深めるために、各自のテーマ設定や論文の書き方についても学ぶ。論文のテーマ設定については、各自の興味に応じた内容を検討し、絞り込んでいく。</p>							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	現代日本社会が抱える様々な（福祉）問題に関する情報を収集し、それを分析して自己や社会の成長に役立つ知見を指摘できる。				・資料作成	10%	
コミュニケーション力	ホスピタリティの精神に基づいて他の人の意見を傾聴するとともに、文献や資料を正確に読解し、テーマを発見・深めることを通じて、自分の考えを明確にした上で、相互理解を図る議論に参加できる。				・授業での発表・グループ討議など 授業への参加	70%	
協働・課題解決力	資料の作成・プレゼンテーションのスキルアップを通じて、課題を的確に把握し、他の人と協力して課題解決に向けた方策を立案し、実行する営みに寄与できる。				・課題提示に対するプレゼンテーション	20%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業への出席・参加は当然の評価要件とし、資料の作成（評価比率 10%）、プレゼンテーション（評価比率 20%）、ディスカッション（評価比率 70%）などによって総合的に評価する。資料作成については問題に関する情報を収集し、問題解決の糸口を発見できたかどうかを評価する。プレゼンテーションについては、他人の意見を傾聴し自分の考えを明確にした上で、相互理解を促進できたかどうかを評価する。ディスカッションについては、資料の作成・プレゼンテーションのスキルアップを通じて、課題を的確に把握し、他人と協力して課題解決に向けた立案ができるかどうかを評価する。なお発表内容に関しては、授業内にコメントの形でフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>授業の進め方は、最初にオリエンテーションを施し、前半は、ゼミ全員でディスカッションの上決定した文献を各自分担の形でプレゼンテーションを行う。後半は、各自関心があるテーマについて文献を報告し、その過程を通じて、レポート形成の基礎となる学問的作法（問題意識の形成やテーマの絞り方、文献収集や文献の読み込み方など）を学ぶ。課題の提示・学生からの回答、テスト、学習内容のフィードバックにポートフォリオを使用する。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない 参考書：『福祉系学生のための 改訂レポート&卒論の書き方』（2005） 川村匡由・川村岳人 中央法規 ※適宜参照する 指定図書：2022 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験過去問一問一答+α 共通科目編</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>3 年次の専門演習の基礎となる演習なので、主体的に取り組むことを期待する。取り組みへの積極的態の有無によって、専門演習における学修の深まりに差が出てくることが予想される。自分で社会や福祉の問題を考えるための貴重な時間なので、資料作成や発表の準備等に積極的に取り組むことを通じて、有意義に過ごしてもらいたい。授業の欠席は、できる限り事前に連絡すること。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション①	自己紹介、演習の進め方の説明、スケジュール確認と文献情報の提供	年間スケジュールを確認する
2	オリエンテーション②	レジュメ作成の方法をレクチャー、例示する レジュメ作成および文献発表の割り振り	割り振りの確認と発表資料の準備をする
3	文献購読①	ゼミで輪読する文献の報告およびディスカッション	報告資料の作成と、全員が該当部分に目を通しておく
4	文献購読②	ゼミで輪読する文献の報告およびディスカッション	報告資料の作成と、全員が該当部分に目を通しておく
5	文献購読③	ゼミで輪読する文献の報告およびディスカッション	報告資料の作成と、全員が該当部分に目を通しておく
6	文献購読④	ゼミで輪読する文献の報告およびディスカッション	報告資料の作成と、全員が該当部分に目を通しておく
7	文献購読⑤	ゼミで輪読する文献の報告およびディスカッション	報告資料の作成と、全員が該当部分に目を通しておく
8	文献購読⑥	ゼミで輪読する文献の報告およびディスカッション	報告資料の作成と、全員が該当部分に目を通しておく
9	文献内容についての意見交換	前回のゼミで報告が終了した文献の全体内容について、意見交換を行う	各自レポートを作成
10	論文とは何か	『レポート&卒論の書き方』を通じて、論文の書式や論文執筆の作法を学ぶ	該当部分を読んでくる
11	テーマの発掘①	各自が今興味を持っているテーマについて、発表する	報告資料の作成
12	テーマの発掘②	各自が今興味を持っているテーマについて、発表する	報告資料の作成
13	テーマの発掘③	各自が今興味を持っているテーマについて、発表する	報告資料の作成
14	テーマの発掘④	各自が今興味を持っているテーマについて、発表する	報告資料の作成
15	前期のまとめ	前期のまとめと後期に向けての課題設定を行う	後期のスケジュールを確認する

授業科目(ナンバリング)	専門基礎演習 A(DH201)			担当教員	中村 尚生		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
心理学は社会福祉学と近接した領域であり、対人援助職を志す者が相談者を適切に理解するために心理学的知識や視点を獲得することは必須である。また、援助行為には対人コミュニケーションが必要不可欠であり、対人援助職を志す者が自分自身のコミュニケーションのあり方を把握しておくことは重要である。本授業では、対人援助職を志す者として、こころの問題及び障がいの理解ならびに自己理解の深化を目的とする心理学的知識や視点の獲得を目指す。加えて、心理、障がい、児童などの分野において社会福祉学に関係するテーマを選定し、論文執筆の方法やプレゼンテーションの方法など研究の基礎を学ぶ。							④⑤⑥⑦⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力							
情報収集、分析力	関心のあるテーマについて資料を収集し、問題意識や課題を明確化することができる。				レポート		20%
コミュニケーション力	発表を通じて自分自身の考えを他者に伝えることができる。自分自身と他者の考えの相違点を踏まえた上で討議できる。				発表 ディスカッション		30% 10%
協働・課題解決力	グループ活動に主体的に参加することができる。				グループワーク		30%
多様性理解力	自分自身と異なる立場や意見を尊重し、建設的に討議できる。				ディスカッション		10%
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
定期試験はおこなわず、グループ課題（レポート及び発表）50%、グループワーク 30%、ディスカッション 20%をもって評価する。グループ課題では、問題意識や課題について適切にまとめ、他者に情報を伝えることができているかどうかを評価する。グループワークでは、参加態度及びグループへの貢献度をもとに評価する。ディスカッションでは、自分自身と異なる立場や意見を理解、尊重し、建設的な討議ができているかどうかをもとに評価する。課題への取り組みや発表内容については、ポートフォリオなどを通じてフィードバックをおこなう。							
授業の概要							
本授業は、ゼミ形態での授業を基本とし、心理学や障がい児・者及び子どもを対象とする支援をテーマに取り上げ、学修を進める。ディスカッションや発表、レポート作成といった授業課題にグループで取り組む。それによって、他者と協働しながら課題を解決する能力や協調性を醸成する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：指定しない 参考書：適宜紹介する 指定図書：沼崎一郎『はじめての研究レポート作成術』岩波書店							
授業外における学修及び学生に期待すること							
障がい児・者や子どもへの支援に関心がある学生の履修を期待する。 本授業では、グループワークやグループディスカッションが求められるため、履修生の主体的な参加を期待する。さらに、授業内容に関連するボランティア活動への積極的な参加を期待する。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	シラバスの内容や授業の進め方などについて説明する。	予習：シラバスを熟読する 復習：今後の授業の進め方を確認する
2	非言語的コミュニケーション	人間関係における非言語的コミュニケーション（視線・表情・ジェスチャーなど）の機能について体験的に学修する。	予習：非言語的情報の種類を考える 復習：非言語的コミュニケーション機能を省察する
3	言語的コミュニケーション	人間関係における言語的コミュニケーションの機能について体験的に学修する。	予習：言語情報の伝え方を考える 復習：言語的コミュニケーション機能を省察する
4	子どものこころの問題①	不登校やいじめの問題について学修する。	予習：不登校やいじめの問題を調べる 復習：いじめや不登校の問題を省察する
5	子どものこころの問題②	不登校やいじめの問題を抱える子どもの支援方法についてディスカッションをおこなう。	予習：いじめや不登校の問題の支援方法を調べる 復習：いじめや不登校の問題の支援方法を省察する
6	発達障がい①	神経発達症（発達障がい）を中心とする障がいについて学修する。	予習：神経発達症の症状や特徴を調べる 復習：神経発達症の症状や特徴を省察する
7	発達障がい②	神経発達症（発達障がい）を中心とする障がいをもち生活する人々の支援方法についてディスカッションをおこなう。	予習：神経発達症の支援方法を調べる 復習：神経発達症の支援方法を省察する
8	課題研究 （テーマ選定）	グループ編成をおこない、学修した内容などからグループごとに問題意識や課題を立ち上げ、研究テーマを設定する。	予習：関心のある研究テーマを考える 復習：研究テーマに関する問題意識を明確化する
9	課題研究 （文献検索）	研究テーマに関する文献や書籍などの検索方法を学修し、文献検討に向けた準備をおこなう。	予習：研究テーマに関するキーワードを選定する 復習：文献や書籍の検索方法を確認する
10	課題研究 （文献検討）	グループごとに設定した研究テーマに関する文献や書籍などの検索・検討をおこない、問題意識や課題を明確化する。	予習：研究テーマに関するキーワードを選定する 復習：研究テーマに関する問題意識を明確化する
11	課題研究 （研究レポート作成①）	研究レポートの作成方法を学修し、作成に向けた準備をおこなう。	予習：研究レポートの作成方法を調べる 復習：研究レポートの作成方法を確認する
12	課題研究 （研究レポート作成②）	グループごとに研究レポートを作成し、発表に向けた準備をおこなう。	予習：研究レポートの構成を考える 復習：研究レポートの内容を推敲する
13	課題研究 （研究レポート作成③）	グループごとに研究レポートを作成し、発表に向けた準備をおこなう。	予習・復習：研究レポートの内容を推敲する
14	課題研究 （研究レポート作成④）	グループごとに研究レポートを作成し、発表に向けた準備をおこなう。	予習・復習：研究レポートの内容を推敲する
15	課題研究 （発表）	研究レポートを発表し、発表内容について全体討議をおこなう。これまでの授業内容を総括する。	予習：研究レポートの発表準備をおこなう 復習：課題研究への取り組みを省察する